

第1回検討会における御意見・指摘事項

1. 処理技術、排水濃度の低減について

- ・処理技術について、他にも多様な可能性があるかどうかに関心がある。(浅野委員)
- ・処理費用が高いということが3年ぐらい先に安くなるのか。それが無理であれば、暫定排水基準値を下げていくことができるのかどうかという問題がある。(甘露寺委員)
- ・循環ろ過というのをもっときちんとやって、掛け流しを少なくするというのも当然、有害性のものがあるのならば考えていかなければいけない。(甘露寺委員)
- ・温泉の給湯は集中管理方式で水道と同じような配管で配っている。排水の方でもそういった一括してやるということができないのかどうか。将来の話だが、現実問題として検討しなければいけないのではないかと。排熱についても同じように一括で回収すると能率がいい。(甘露寺委員)
- ・処理方法について、高濃度のところに沿った処理法というのを考えた方がよいのではないかと感じる。(辰巳委員)
- ・現行法上は許されていないが、例えば、上流域で河川に温泉を排水して少し下流に処理施設を設置し、施設で一括処理をして排水基準を満たすということが許されるのかどうかということを、是非議論していただきたい。(布山委員)
- ・海外ではどう対応しているのか。海外のまねは必要ないが、こういう有害物の処理は自治体とか国が対応すべきものかなという意見。(平沢委員)
- ・温泉排水の処理では、ありとあらゆる溶存物が含まれていることや濃度にバラツキがあることが技術的、経済的に難しい。(藤田委員)
- ・ふっ素の処理は何とかなるかもしれないが、ほう素は無理。(眞柄委員)
- ・特にほう素については処理技術がもうちょっと革新的なものできて、価格も安くなると実行できないかなという感じ。(森田委員)

2. 自然由来について

- ・自然由来というのは一体そもそもどう考えるのかという問題は、どういう結論になるにせよ、やはりきちんと議論しておかなければいけない点だと思う。ただ、自然由来のものはそのままいいという哲学を出してしまうと土対法にも関係してくる。(浅野委員)
- ・温泉の排水は、使う前から掘ったときに自然に出てきているので自然由来で適用対象外ではないかと個人的には思う。適用対象にするのに違和感がある。(平沢委員)

3. 検討対象について

- ・日帰り温泉を温泉利用しているのに対象にしなかった理由を確認したい。(甘露寺委員)
- ・温泉については、ヒ素や水銀についての規制が温泉旅館に関してどうなっているかということも整理していかないといけない。(眞柄委員)
- ・検討対象として、温泉水を使ったプールもある。地下水を使っているいろいろな施設の排水をどうするかというのも今後検討の対象にしなければならない。(眞柄委員)

4. 実態調査について

- ・一律基準を超える排出をしているところは、共同処理施設になじむような場所でオーバーしているのか、一温泉宿しかないところでオーバーしているのかという実態はどうなっているか。これは実際ほとんど取るのは不可能に近いだろうが、わかると議論がしやすいという面はある。(浅野委員)
- ・温泉の許可の時に泉質や成分が測定されているので、基礎的な情報は収集できる。(浅野委員、眞柄委員)
- ・希釈により排水段階では案外低い値になっているといった結果もある。そういった結果を反映し、もう少し細かく、どのくらいやりにくい施設があるのか。(甘露寺委員)
- ・自然湧出はどのくらいの量があるか。また、自然湧出している温泉を一部利用している施設での、一部というものの量がどれくらいか。(甘露寺委員)
- ・排水処理施設を考えたときには、場所の問題はすごく重要。排水処理施設が必要なところと、そこに排水処理施設を設置する余裕があるのかどうかということ进行调查した方がいい。(辰巳委員)
- ・泉質の分類を踏まえた上で、ほう素、ふっ素の分布がどうあるか整理するのがよい。(眞柄委員)
- ・廃棄物側へ行っているほう素があるが、それがどのくらいのウエートがあるのか、温泉と比較する意味で調べておいてほしい。(森田委員)

5. その他

- ・温泉の利用許可、掘削許可の際など、温泉にはこういった特殊成分を含んでいるということを温泉をやっている人に啓蒙することも非常に必要なことだと思う。(甘露寺委員)
- ・地熱発電、温泉発電といったものが進展しており、将来は排水処理の問題が必ずでてくる。温泉の採取から利用ということを含めた一体の流れの中で、排水の問題をとらえていく必要があるのではないか。(甘露寺委員)